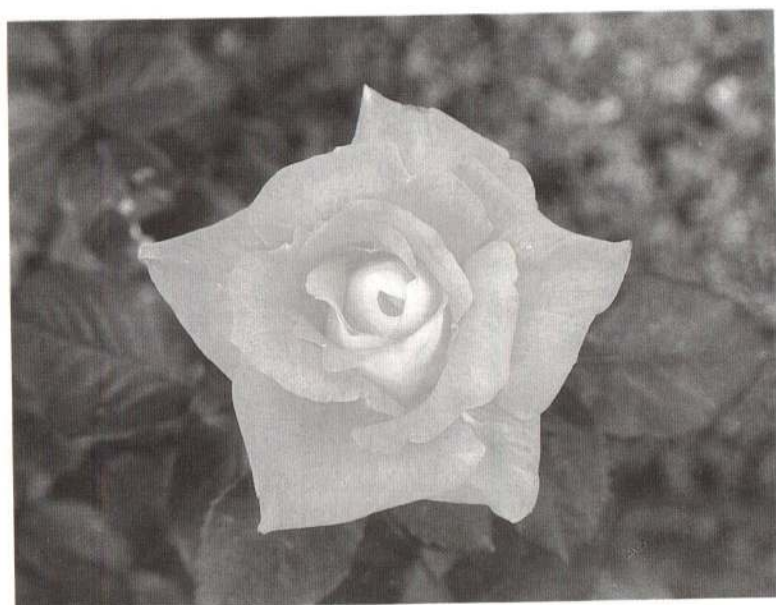


バラまつり



恒例の「バラまつり」が十二日から三十日まで、石田ローズガーデン（三の丸）で開催されます。石田ローズガーデンは、皆さんご承知のとおり、バラをこよなく愛した大館市初の名誉市民・故石田博英代議士の庭園。庭いっぱいバラが、毎年華麗な花を披露してくれます。

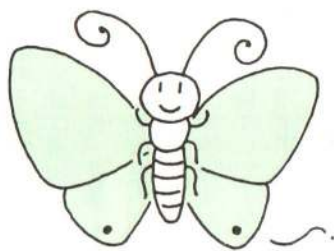
貴重な原種 約600種の競演



種・六百本の原種が植えられています。六百本という数は決して多いものではありませんが、種類の多さと原種という珍しさから、全国的にも貴重なバラ園であるといわれています。

園内のバラは「バラまつり」の会期に合わせて手入れされていますから、会場には美しい花と香りが満ちあふれることでしょう。

入場は無料。二十二日・二十三日には愛好者が丹精込めたバラのコンテストも開かれます。また、園内ではバラの育成指導や苗木の販売も行われます。



さわやかな初夏の空の下、広い庭園を散策しながら、鮮やかな色彩と甘い香りに包まれる、そんな素敵な一日はいかがでしょう。

市長リポート

No. 114



高度救急医療体制の
確立を急ぎます

市立総合病院の改善・市民サービス向上策の一つとして、今回は、二十四時間体制、時間外体制についてのお話をしたいと思います。

市の八年度当初予算の中で「休日夜間急患センター」の設置について、特別会計を組んで予算を計上しました。現在は、建設の準備に取り組んでいるところです。

実際、救急・急患で来院されるかたは、その九割までが時間外つまり病院の外来業務が休止している休日や夜間に集中しているといわれます。しかし、そうしたときに当番医しか病院に居らないということであれば、専門的な治療という点で心もとない状況である、というのは否定のできない事実です。人間の生死に直接かわる問題ですから、これは改善を急がなければなりません。

また、医療と薬剤の分業が進む昨今ではありますが、薬剤部門についても、救急医療に合わせた二十四時間対応できる態勢を整えることが必要であると考えます。休日・夜間を問わない救急患者受け入れ態勢の確立は、現在最も重視しなければならないことの一つなのです。

また、死と隣り合わせの状態にある救急患者の場合、医師の手に委ねられる直前数分間の処置が生死を分けるといわれます。救急救命士や高規格救急車の導入による、病院への搬送以前の処置の必要性は、これまでも強く叫ばれているところです。喜ばしいことに、この春には広域圏初の救急救命士が誕生しました。今後はさらに人材の育成に努め、高規格救急車の導入を早期に実現できる態勢づくりを急ぎたいと考えています。

小畑 元